

アインズZOOMセミナー テキスト／小論文編 答案例付き

東京都立看護専門学校社会人入試
2013年度～2021年度(12年間)

①(平成22年度／2013年度)

気象予報官にもタイプがあって、その昔は「屋上派」と「地下室派」がいたそうだ。(中略)屋上派は屋上で空を眺め、風を確かめる。実況に照らしてデータを修正して予報を出す。片や地下室派は、部屋にこもって資料とにらめっこをする。解析技術は高いが、降っているのに「晴れ」と予報するぐらい実況には無頓着な人たちなのだそうだ。▼相通じる話を、免疫学者の多田富雄さんが書いていた(読売新聞)。医者がパソコンばかり眺めて、患者の顔を見て診察しない。数値に頼って感情の訴えを聞かない。多田さんによれば科学的根拠に基づく医療が行き過ぎたゆえの問題らしい。▼その反省から「ナラティブ・ベイスト・メディシン」というのが提唱されているそうだ。訳せば「物語に基づく医療」となる。聞き慣れないが、つまりは話をよく聞き、「ひとりの人間としての患者」を忘れない医療である。▼結構な話だが、医師のコミュニケーション能力は大丈夫かと心配になる(中略)▼病という難事において人生という物語を共有してくれる、「屋上派の医師」がもっと育てばいいのだけれど。

(キーワード)自分の目で確かめる 話をよく聞く ナラティブ・ベイスト・メディシン

(設問)筆者の言う「屋上派」と「地下室派」とは、どんなタイプの人のことか、あなたの言葉で説明しなさい。また、課題文を踏まえ、どのような看護師が望ましいか、あなたの考えを1200字程度で述べなさい。

(答案例)筆者の述べている「屋上派」とは、実際に自分の目で見て確かめ、何かを感じる人のことだ。さらに実際と照らし合わせて、考えと現実とがそぐわないときには自分の考えの誤りを正す人間のことだ。その反対に「地下室派」とは、自分の固定観念や先入観に縛られて実情を知ろうとせず、自分の殻に閉じ籠ってばかりいる人間のことである。▼以前私はこの「地下室派」ような人間に会ったことがある。私の息子が小学生だった頃のことだ。たびたび学校でのトラブルがあり親である私もその都度呼び出された。親まで呼び出されることはあまりないので、親の私に呼び出しが重なるたびに息子は悪い子のレッテルを貼られた。当時の担任の先生は、両者の話を聞かずに、最初から息子が悪いと決めつけた。私にはまさに「地下室派」の人間だと思う。子供は自分の保身のためなら嘘を平気でつくこともある。ましてや低学年ならなおさらだ。担任の先生はそのことにも気がつかず、被害者と思われる子供の肩ばかりもった。こちらの言い分を一切聞こうとしない状況を前にして、私は親としてつらかった。▼その後息子が5年生になったとき、今度は「屋上派」であろう先生と出会った。その先生は他校からの転勤で来られた。だから過去の息子の様子は記録上でしか知らないはずだ。先生は常に息子に真剣に向き合ってくれた。トラブルが起きれば両者の話を聞き、周りに他の子がいたならばその子達も呼んで話を聞いてくれた。そして互いが納得いくまで話し合ってくれた。そのうち息子は先生や学校に対する考えが変わっていった。もしかすると学校に対する考え方が私も「地下室派」の人間だったのかもしれない。なぜなら私たちのような経験が積み重なると希望が持てなくなるからだ。しかし息子の担任になった「屋上派」の先生のおかげで、学校という小さな集団の中に希望が見えた。▼課題文の中でパソコンばかり眺めて患者の顔を見て診察しない医師のことが書かれている。筆者は科学的根拠に基づく医療が行き過ぎたゆえの問題らしいという。しかし私はいささか疑問がある。なぜならそれはその医師自身が根っからの「地下室派」であったからではないか。臨床で献身的に患者さんに寄り添っていた医師が、医療の進歩でパソコンばかり眺めるような人間になるとは考えにくい。▼コミュニケーション能力とは相手との関係が良好の場合に発揮するものではない。たとえ関係が良好でも相手に順応した対応ができる人がコミュニケーションの上手い人だ。筆者は「屋上派」がもっと育てばいいと記しているが、楽観的すぎるような気がする。▼臨床で患者さんに接するのは決して医師だけではない。看護師もいる。患者さんの状態を良く見て、患者さんの話をよく聞く。患者さんの喜怒哀楽を共有し寄り添ってくれるような看護師がいたら、その患者さんの気持ちはどれだけ救われるだろうか。不安に苦しみ絶望の淵にいたら、それだけで明日へ

の生きる希望が湧いてくる。私は 体も心も救えるような看護師が望ましい看護師だと考える。屋上で空を見る。それは希望を見ることかもしれない。

②(平成23年度/2014年度)

考え続け、探し続ける過程は、とても苦しい。けれど、その苦しさを経てひらめきに辿り着いたときほど、脳が喜ぶことはない。お金をもらうより、社会的地位を得ることより、はるかに良質の喜びを脳にもたらす。これを「報酬の通貨」という。▼脳は快樂が好きだ。何か行動を起こした結果、幸福を感じさせる脳内の神経伝達物質であるドーパミンが放出されて快樂が得られると、脳の回路は強化される。お腹が空いた赤ちゃんが泣いて、ミルクをもらえば、「お腹が空いたら泣く」という行動が強化される。頑張ったことで褒められれば、また頑張ろうと思う。こうした強化学習を通して、考え方や行動が変わっていく。▼数学者にとっては、未解決の難問を毎日唸りながら考えるのが何よりの快樂だ。問題を一生懸命考え続けることと、その過程でひらめき生まれることは、無上の喜びと満足感を脳にもたらしてくれる。ただやってみるだけではなく「やりきる」ことが快樂であり、「やりきる」ことができれば、脳はさらに大きな報酬を受け取る。この時にドーパミンが出て、強化学習は成立する。▼脳の学習とは、成功体験をやり遂げるまでがワンセットなのである。その過程が苦しければ苦しいほど、やりきった時に出るドーパミンは多量になる。「結果を出す」ことには、極めて大事な価値があるのだ。中途半端に「やめた」と放り出すと、そもそも強化学習が成立しなくなる。▼脳の仕組みから言えば、勇氣は勇氣を生み、臆病は臆病を育てる。上手くいかどうか分からない困難なことに挑戦して成功すれば、不確実なことに挑戦する、いわば「勇氣の回路」が脳内で強化され、自然とチャレンジ行動が取れるようになる。だから、どんなに小さくても、成功体験を得ることが重要なのだ。

(キーワード)強化学習 成功体験

(設問)作者の考え方を簡潔に要約した上で、あなたの「強化学習が成立した経験」について、1200字程度で述べなさい。

(答案例)考え続け、探し続けるという苦しい過程を経て結果を出したとき、要は最も喜びを得る。何か行動を起こした結果、ドーパミンが放出されて快樂を得ることで、脳の回路が強化される。この強化学習を経て考え方や行動が変化する。強化学習が成立するためには物事を投げ出さず最後までやりきることが重要だ。またその際成功して結果を出すことで脳へ多くの報酬を与えることになり大きな価値がある。成功するという強化学習は考え方や行動を変えることにつながるため、成功体験を得ることは重要だということを作者は述べている。▼私が今まで病院内の診療放射線技師として業務を行う中で、最も強化学習が成功した経験は、一番初めに配属されたレントゲン部門で撮影技術の向上に努めたことだ。そこでの努力が仕事を最後まで投げ出さずやり遂げることを身につけさせてくれたと思う。その経験がその後に配属された各部署や転職先の病院で生きた。私が分からないことがあったら事前に調べる。それを積み重ねていくことで新しいことに挑戦することができるようになったと感じている。▼実際のところレントゲン撮影というものは、病院に入職してはじめて一から学んでいくことがほとんどだ。そのために、はじめは本当に何もできず、できないことだらけだ。そこで多くの先輩や患者さんに迷惑をかけてしまうことが非常に心苦しかった。学校で習ったことを復習したり、参考書で撮り方を勉強したりした。さらに同期生と練習を重ねても、実際に患者さんを撮影するとうまくできないことが多かった。なぜなら患者さんによってレントゲン撮影の仕方を基本から変化させなければならないケースが多かったからである。さらに撮影する部分が骨折していたり、変形があったりする患者さんもいる。私は経験が足りずにどのような場合にどういう工夫をしたらいいかをすぐに判断をすることができなかった。▼そこで私は先輩方にアドバイスをもらったり、難しい撮影のときこそ積極的にやらせてもらうようにした。もちろんはじめうまくできないことが多かった。しかし徐々に難しい患者さんの撮影も工夫して撮影することができるようになった。またその過程で大きな気づきがあった。それは難しい患者さんの撮影をする際には患者さんとよく会話をしお互いに協力し合いながら行うことが大切だということだ。その結果、初見では難しい患者さんの場合でもカメラや体位をその都度微妙に変化させ

ながら撮影する応用力を身につけることができた。▼この最初の経験はその後配属された各部署や異なる病院に勤める際にも役立った。今までとは異なる業務を行う際には、分からないことも多く、自ら進んで行うことをためらってしまいがちだ。しかし分からないから、行ったことがないからという理由でそこから逃げてはいつまでたっても成長できない。レントゲン部門の業務で積極的に挑戦することの大切さにも気づくことができた。そのためその後も先輩方に協力してもらいながら挑戦するまでに成長していった。それにより現在では機械が変わったり撮影のしかたが異なっても、工夫して乗り切ることができるようになった。▼私はこの経験を今後看護師として働く際にも活かしていきたいと考えている。学校で学んだことだけでは対応できないことわからないことが業務に入ることが多く生じる。その際逃げ出すことなく挑戦し看護師としてやれることを増やしていきたいと私は考えている。

③(平成24年度／2015年度)

学びの場に立とうと思うなら、子供は決して自らを消費者として規定してはなりません。それは消費者というものの条件を考えればすぐわかることです。(中略)消費者とは「もっとも少ない代価で、もっとも価値のある商品を手に入れること」を目標とする人間のことです。▼「代価」とは学校教育においては「学習努力」のことです。そこにはいろいろなものが含まれます。授業を聴くのも、自宅学習するのも、校則を守ったり、制服をきちんと着たりするのも、先生に敬語を使うのも、子供に何らかの努力を要求するものは、すべて「代価」にカウントされます。(中略)▼いかに少ない「代価」を以って、試験のハイスコアや、見栄えの良い最終学歴を手に入れるか、それが消費者としては最優先の課題になります。▼そのせいで、僕たちは「賢い消費者」として学校期間を通過してきた子供たちの「末路」の無数の事例を周囲に見ることができます。▼一流大学を出たはずの若いサラリーマンと話した時に、彼があまりに無知なので「いったい君は大学で何を勉強していたのだ？」と訊いたことがありました。すると彼は何と「何も！」と胸を張って答えたのです。思いがけない答えに一度はびっくりしたあとに、僕はなるほどと理解しました。彼にとっては、一流大学を出ているにも関わらず無知であることは少しも「恥ずかしいこと」ではなく、無知であるにも関わらず一流大学を出たことこそが「誇るべきこと」だったのでした。(中略)それは彼にとっては「誇るべき達成」だったのでした。彼の笑顔はわずかな手銭で驚くほど高級な商品を買ってみせた「買い物上手」の自慢顔だったのでした。(中略)▼市場原理を教育の場に持ち込んではいけません。そのことを僕はずっと言い続けています。

(キーワード) 学びの場 学習努力

(設問) 本文で作者が言いたいことはどんなことかを記述した上で、本文と関連させて、あなたにとって学ぶこと・学習することはどんな意味を持つかについて1200字程度で述べなさい。

(答案例) 作者は、学びの場に立とうと思うなら子どもは決して自らを消費者として規定してはならないと主張している。消費者とは「もっとも少ない代価で、もっとも価値のある商品を手に入れること」を目標とする人間である。ここで言う代価とは「学習努力」のことだ。消費者として最優先の課題は、いかに少ない代価を以って、試験のハイスコアや見栄えの良い最終学歴を得るかである。そのせいで「賢い消費者」として学校期間を通過してきた子供達には、無知であるにも関わらず一流大学を出たことが「誇るべきこと」であるというような末路が待っているのだ。そこで作者は市場原理を教育の場に持ち込んではいけないと主張している。▼作者の主張を踏まえ、私にとって学ぶということはどういうことかを考えると、それは自己の成長のために努力することだと考える。学生の頃の私の勉強というものは作者の言う「賢い消費者」としての学びであった。学生時代を振り返ると、たしかに大学受験や就職試験のためだけの学びにすぎず、自己の成長につながるような学びではなかったように思える。しかし社会人になってその思いは一変した。なぜなら学びを通して自己成長できることを実感したからだ。さらに大切なことにも気づかされた。▼大学卒業後、私は航空会社に就職して国際線の客室乗務員になった。訓練は厳しかった。国際線の訓練では毎日筆記試験や実技テストがあり予想以上に大変な日々であった。その中でも苦労したことは御食事サービスの訓練である。国際線での食事は、宗教食やアレルギー対応食などの約20種類の特別食が用意されている。例えば提供マニュアルが複雑なユダヤ教のお食事サービスの訓練では、ユダヤ教についての学びを深めることや、またユダヤ教の食事がどのように調理されているのかを学んだ。その学びによりお客様の気持ちに配慮したサービスができるようになった。受験や就職のためだけのその場しのぎの勉強ではなく、自分の成長のためになる勉強ができるようになった。そして学習努力を重ねることによって、客室乗務員としての成長だけではなく、人間としても成長することができたと考えている。さらには自国の文化だけではなく、異文化の理解も深まった。学びは広く社会のことを知るためにあることにも気づかされていった。▼私は看護を学ぶ場においても、学びを通して得られる自己の成長はもとより、関わる患者様や社会のためにも成長し続けたい。患者様の命を守る責任がある看護師を目指す者としての責任と自覚

を持ち、主体的な学習努力を続けられる人間になりたいと考えている。取り組んでいる課題や試験は何のためにあるのか、実習は何を習得するために行うのかなど、常に目的意識をもって学習を続けることである。そしてその学校を卒業した後も、学びは自己成長と、将来関わる患者様や社会のためにあるということを忘れずに、自己研鑽と自己鍛錬に励みたいと考えている。

④(平成25年度／2016年度)2005年頃から、様々なメディアで「不幸な若者」や「かわいそうな若者」がクローズアップされることが多くなった。増える一方の非正規雇用、低賃金で働くワーキングプア、どんどん厳しくなる就活戦線、現代版ホームレスとも言えるネットカフェ難民たち。▼だがここに、「不幸な若者」像を持っている人たちにとっては驚きであろうデータがある。(中略)どうやら今の若者たちは自分たちのことを「幸せだ」と感じているらしいのだ。複数の世論調査によれば、多くの若者たちは今の生活に満足している。しかも、若者が元気だったらしい1970年代と比べても、新人類が闊歩していたらしい1980年代と比べても、バブルがはじけても世間はまだまだお祭り気分だったいっ1990年代と比べても、その満足度は高いのである。▼内閣府の「国民生活に関する世論調査」によれば、2010年の時点で20代男子の65.9%、20代女子の75.2%が現在の生活に「満足」していると答えている。こんなに格差社会だ、若者は不幸だと言われながらも、今の20代の約7割は生活に満足しているのだ。特に男の子に関しては、過去40年間で15%近くも満足度が上昇している。(中略)▼人はどんな時に「今は不幸だ」「今は生活に満足していない」と答えることができるのだろうか。大澤によれば、それは「今は不幸だけど、将来はより幸せになれるだろう」と考えることができる時だという。▼将来の可能性が残されている人や、これからの人生に「希望」がある人にとって、「今は不幸」だと言っても自分を全否定したことにはならないからだ。(中略)▼これで高度成長期やバブル期に、若者の生活満足度が低かった理由が説明できる。彼らは「今日より明日が良くなる」と信じる事ができた。自分の生活もどんどんよくなっていくという希望があった。だからこそ「今は不幸」だけど、いつか幸せになるという「希望」を持つ事ができた(中略)▼しかし、もはや今の若者は素朴に「今日より明日が良くなる」と信じる事ができない。自分達の目の前に広がるのは、ただの「終わりなき日常」だ。だからこそ「今は幸せだ」ということができる。つまり人は将来に「希望」をなくした時、「幸せ」になることができるのだ。

(キーワード)ワーキングプア ネットカフェ難民

(設問)筆者の言おうとしていることを要約した上で、若者の生活満足度が向上しているという調査結果を踏まえ、あなたの考える生活の満足について1200字程度で述べなさい。

(答案例)2005年頃から、様々なメディアで「不幸な若者」や「かわいそうな若者」がクローズアップされることが多くなった。しかし今の若者たちは自分たちのことを幸せだと感じているのが現状である。多くの若者たちは、今の生活に満足しており、その満足度は昔と比べても高い。格差社会の世の中で、若者は不幸と言われながらも、20代の約7割は生活に満足している。今の若者は、今日より明日が良くなると信じる事ができないため、今が幸せだということができる。つまり人は将来に希望を無くした時、幸せになることができるのだ。以上のように筆者は述べている。▼そんな私も以前は将来に目標がなく、ただの終わりなき日常を過ごす日々が続いていた。事務員として働く中で、特に大きなやりがいを感じることもできないまま、自分自身の生活のためにだけ働いていた。しかし働いていくうちに少しずつ自分の意識に変化が出てきたのである。その変化とは自分のことだけではなく、お客様や働く仲間のために自分が何ができることはないかと考えられるように変わってきたのである。自分が取り組んだことや、他者が喜ぶ姿に嬉々たる感情を抱くようになったのだ。▼そのようなことがきっかけで、助けを必要としている人の力になりたいと思い始めた。そこでまず自閉症児の同伴登校をするようになった。私の友人にひとりのシングルマザーがいる。彼女の子は自閉症である。その子が小学生になり、学校の登校には同伴者が必要だと聞いた私は、友人の力になりたいと考え同伴登校をすることにした。しかし登校という限られた時間の中で、初めはその子とコミュニケーションを図ることが難しかった。しかし日々の積み重ねの中でその子とは少しずつ信頼関係を築く事ができた。友人から子の顔に少しずつ笑顔が増えていったと聞き、私は微力ながらも力になることにやりがいを感じる事ができた。▼その後私は知的障害施設の支援員となった。理由は人の役に立ちたいという自分の気持ちを大切にしたいからだった。支援員を始めたばかりのときは利用者の自立に向けた支援が円滑に行う事ができなかった。しかし少しずつ慣れていくことで、利用者が楽しんで過ごす姿にやりがいを感じ

るようになった。次第に保護者のかたからも信頼されるようになった。そうした期待に応えるために私は積極的に関係機関と連携を取ったり、知的障害に関する知識を自ら主体的に深めたりすることに努めていった。▼私にとって生活の満足とは他者から必要とされ、他者が感じている幸せに私自身が幸せを感じることである。若者たちが将来に希望を持たない理由を考えた時に、他者への貢献意識の低さも理由の一つだと私は考えている。他者の幸せを自分の生きがいにすることができれば、終わらない日常も変化して、本当の生活の満足度も上がるのではないだろうか。▼ 病気やケガで苦しむ患者さん寄り添って、患者さんの健康回復や社会復帰に喜びを感じて、患者さんから必要とされることにやりがいを持ちながら、私自身の生活を満足させられる看護師になりたいと考えている。

⑤（平成26年度／2017年度）

次の文は生命科学者であり、歌人でもある柳澤桂子さんが、書いた文の一部である。これを読んで、設問に答えなさい。

私たちは、悲しいまでに、他人の心を知る能力に欠けています。▼他人の苦しみや悲しみは、それが動作として、あるいは言葉として現れたときにはじめて、推測することができます。そして、このようなときに、言葉というのがいかに頼りにならないかということも、多くの人が経験していることではないでしょうか。▼言葉という情報交換の手段で頼れなくなったとき、苦しむ人々に、手を差し伸べることはできるのでしょうか。それは、非常に難しいことのように思われるかもしれません。▼だが人間には、人を冷やす能力が備わっている。また、癒しを受ける能力も備わっている。私は、そう確信しています。▼しかし、人を癒す能力は、傷ついた相手を「助けよう」と思ったその瞬間に失われてしまう。そういった類のものであるように私は感じられます。では、どうすれば良いのでしょうか。▼まず「癒す」という気持ちを捨てることです。そして、苦しむ人を、あるがままの状態を受け入れ、いかなる価値基準でもその人を判断しないことが肝心なのではないでしょうか。▼ちょうど、太陽の照りつける道を歩んできた旅人に、涼しい木陰を提供する大樹のように、無心になることです。自分の枝の長いことも、葉が豊かなことも、樹は決して誇りはしません。木陰で休む旅人の心を傷つけるようなこともしません。ただ黙ってそこに立っているだけです。

（キーワード）人を癒す 癒しを受ける

（設問）上記の文を要約した上で、看護を目指す者として「人を癒すこと」「癒しを受ける」ことについてどのように考えるかを、1200字程度で述べなさい。

（答案例）他人の苦しみや悲しみというものは、それが動作や言葉として現れたときに初めて推測することができる。そして言葉という情報交換の手段に頼らなくなったとき、苦しむ人に手を差し伸べることは非常に難しいだろう。しかし人間には人を癒す能力、また癒しを切る能力が備わっている。人を癒す能力は傷ついた相手を助けようと思った瞬間に失われてしまうものだ。癒すという気持ちを捨て、苦しむ人をあるがままの状態を受け入れることが肝心なのである。以上のように筆者は述べている。▼私は看護を目指す者として、苦しみや悲しみを持つ人に寄り添い孤独感を和らげることが「癒し」につながると考える。私はそのことを祖母の看病を通して感じる事ができた。数年前に私の祖母は脳梗塞で倒れた。半身麻痺の後遺症が残り、発話もできずコミュニケーションを取ることができなくなった。様々なリハビリを行ったものの回復することはなかった。現在は寝たきりの状態になり、病院で一日を過ごしている。最初は見舞いに行くたびに、意思疎通のできない祖母に対し何ができるのだろうと自問自答を繰り返していた。意思疎通が出来るうちにもっと色々なことをしてあげたかったと後悔ばかりが頭をよぎっていた。▼しかし私はあることに気づかされた。それは私が病室に入るたびに祖母の目がハット大きくなり微笑んでいるように見えることだ。私はそのとき、たとえ何もしてあげられないとしても、ただ祖母のそばに寄り添っていることが、少しでも祖母の心の癒しになっているのではないかと感じ始めたのである。それ以来私は出来る限り祖母のもとを訪れ、一緒に時間を過ごせるよう心がけている。たとえば最近あった出来事を話したり、一緒にテレビを見たりした。他にも昔の写真を一緒に見たり、音楽を聞いたりなどして、自分自身がそこで楽しい時間を過ごせるようにしたのである。本当に楽しい時が流れていった。しかしいま思えば、このときの私はほかでもない寝たきりの祖母から「癒しを受けて」いたのかもしれないのである。▼祖母の入院している病棟には、祖母と同じように寝たきりで過ごす高齢者の患者さんがたくさん入院している。中には一度も見舞いの方が来ているのを見たことがない高齢の患者さんの姿も見受けられた。私自身は入院の経験はないが、終わりが見えない中、毎日一日中病室の天井を見上げる日々は誰しも孤独を感じるだろう。私は祖母を思い、病院に足を運ぶことで孤独を和らげ、少しでも「癒し」を与えたいと考えようになった。同時に私の心も不思議に穏やかな気持ちになるのであった。▼「人を癒す」ということは相手の立場に立ち自分

に何ができるかを考え行動することだ。もちろん何かをしてあげることができたら素晴らしいことだと思う。しかしそうではなくてもただそばにいただけでもいいのかもしれない。こちら側が無理に押し付けるような癒しではなく、相手を思う上での静かな行動は苦しみや悲しみを持つ人にとって本当の癒しとしてその人を包み込んでいくものであると私は考える。そして実は「人を癒す」を通して、ほかでもない人を癒すはずの側の人間が逆に「癒しを受けて」いくのである。

⑥(平成27年度／2016年度)完璧に思える計画はたいてい机上の空論で、現実の会社の利益があまり見えていません。絶えず変化する市場で成功を収めている企業とは、最小限の計画とコストで商品をスピーディに開発している企業なのです。▼(中略)リーン・スタートアップとは、目標を「実用最小限の製品」を生み出すことに定め、見込み客に販売して得られたフィードバックをもとに、出来る限り早く軌道修正を行うマネジメント方法を指します。つまり、少しでも早く学ぶために、顧客とのやり取りを通じた小さなステップを何度も踏むことを目的としているのです。フェイスブックは、この「無駄のない」企業の代表で、簡単なメッセージサービスを提供する会社として始まり、その後市場からのフィードバックをもとに、次々と追加機能を展開していきました。(中略)▼リーン・スタートアップのアイデアは、大野耐一と新郷重雄がトヨタ自動車で開催した製造革命に由来し、最も重要視されている概念の一つが「現地現物」、つまり「自分の目で確かめる」ことです。この考えで行くと、私たちは自分で行動して直接確かめられない限り、どんなことも確証は得られず、ビジネスの場合にはプロセスや課題を本当の意味で理解したことにはなりません。つまり、自分で見てもいないのに決めつけたり間接的な情報に頼るのは馬鹿げている、というわけです。▼「自分の目で確かめてごらん」これこそ、キャリアカウンセラーであれば真っ先にクライアントに伝えてほしい言葉です。その職業にどんな感情を抱かかなんて、実際その職業に就いてみないことには絶対わかりません。どんなに本を読んでも、下調べをしても、他人に聞いても、それは同じです。なぜならそれは、あなたではなく他の誰かが確かめたことに過ぎないからです。

(キーワード)軌道修正 小さなステップ何度も踏む 自分の目で確かめる

(設問)上記の文で筆者が言いたいことを要約した上で、これを参考にして、看護師を目指すあなた自身の心構えについて、1200字程度で述べなさい。

(答案例)完璧に思える計画はたいてい机上の空論で、現実があまり見えていない。変化する市場で成功するためには、顧客とのやり取りを通じた小さなステップを何度も踏んで需要を早く学ぶことが求められる。また重要なのは「現地現物」つまり「自分の目で確かめる」ことである。自分で行動して、直接確かめられない限り本当の意味で理解したことにはならない。筆者は以上のように述べている。▼看護師を目指す私の心構えは2つある。1つ目は常に相手の立場に立って考え行動や発言をすることである。看護師という立場は患者さんの一番そば近くにいる存在だ。患者さんとコミュニケーションをとる機会が多い。病院には話しかけてくれる患者さん、話しかけてほしくない患者さん、話したくても自分からは話しかけられない患者さんなど、様々な状況の患者さんがいる。どんな状況でも患者さんの変化に素早く柔軟に対応して、こまめに軌道修正を図る。そのためには小さなステップを踏む努力を惜しまないことだ。そこで看護師は、受け持ちの患者さんがどんな病気や怪我をしているのかというのはもちろんのこと、どんな人柄なのか、家族構成はどうなのか、見舞いに来てくれる人いるのかなど、患者さんのことを少しでも早く知り、覚えるために自分から進んで動かさなければならぬと考える。そのためにはまず主体的に自分から挨拶や声かけをして、こちらの顔と名前を覚えてもらう。お互いに目で見て確かめ、話を聞くことで信頼関係を生むことにも繋がっていくのだ。実際、私自身も産後の予後が悪くて再入院した際に声をかけてくれた看護師を本当に信頼していた。病気以外の事も子育てや趣味の話もした。辛い入院生活もその看護師のおかげで辛いだけの思い出ではなくなっていた。▼心構えの2つ目は一生懸命勉強し続けていくことだ。人の命を預かる者としての責任だ。学生生活は3年間と短い。その短い期間の中でどれだけ知識や技術さらに人間性やコミュニケーション能力を身に付けられるのか。3年間の学生生活での臨地実習はわずかのものだ。そのため国家試験に合格し、看護師資格を得ることがゴールではない。臨床に出て看護師として勤務してやっと実際の病気やケガで苦しむ患者さんの前にたてるのである。誰一人として同じ症状や経緯回復スピードの患者さんはいない。それぞれの患者さんのニーズに応え、日々進歩していく医療を学び軌道修正を重ねながらも成長することが必要だ。そのためには日々患者さんの声を聞き、実際に症状をこの目で見て観察することだ。日々の患者さんの状態により、どんな看護をすれば良いのかどうすれば早

く回復に向かう得るのかを判断し看護計画を立てその都度こまめに修正していく自分の目で見て確かめて変化に迅速に対応し行動することが重要なのだ。▼学生の頃は教科書や参考書を読むだけで学んだつもりわかったつもりになっていた。しかし社会人になってから自分の目で確かめ実際に体験する大切さを学んだ。変化する状況にも柔軟に対応して、確実な知識を身につけるためにもこれからは積極的に主体的に行動を起こしていきたい。

⑦(平成28年度／2017年度)

次の文章は人間の孤独と共存性について述べたものです。これを読んで設問に答えなさい。

人間はお互いに他者と共感することはできるであろうか。人はそれぞれ他者を理解することのできない困惑と他者に理解してもらえない寂寥の中で生きている。自己と他者の間には埋め尽くしえない距離が厳然として存在しており、それゆえに人は誰でも孤立した存在である。人間が個性的存在(individuum)であるということは、人間は孤立した存在であるとともに独立な存在、つまり孤独な存在であるということである。▼しかし人間は一人では生きていけない。人間は常に誰かに助けられながら誰かを助けて行かねばならない共存的存在である。人間は孤独な存在であると同時に共存的存在である。というよりも、孤独な存在であるゆえに、他者の助けなしには生きていけない共存的存在である。そこに共感や思いやりが必須となる。これらは人間が人間として生きていくことの証である。そうは言っても孤独な存在であることのゆえに、共感や思いやりは至難なことである。自己と他者との間には幾山河の距離がある。この距離を無雑作に踏み越えるしばしば人の口にする同情や憐れみは、かえって人の反感を呼ぶような安直な感情でしかない。

(キーワード)孤独 共存性

(設問)上記の文章を参考にして、あなたの考える人間の孤独と共存性について、具体例を挙げ、1200字程度で述べなさい。

(答案例)自己と他者の間には、埋めつくしえない距離が厳然として存在している。それゆえに人は誰でも孤立した存在であると同時に、それぞれ他者に還元することのできない独自性を持った独立存在つまり孤独な存在である。しかし人間は孤独な存在であると同時に、他者の助けなしには生きていけない共存的存在でもある。そこには共感や思いやりが必須となり、これらは人間が人間として生きていくことの証である。しかし自己と他者との間の距離を無雑作に踏み越える同情や憐れみは、かえって人の反感を呼んでしまう場合もあるのだ。筆者は以上のように述べている。▼私はどのような孤独に対しても、共感や思いやりの心というものは力を持つと考えている。私は美容部員として勤務していた際、顔の大部分にあざのあるお客様の対応をしたことがある。その方は様々なブランドのカウンターであざをカバーできるものを探し求めていたようだ。結局あざがきれいに消えるものはひとつもなく諦めていたというのである。お話を伺うと、あざのせいであまりメイクを楽しむことができないと言うのである。話す様子は明るかったけれども、私の方には本人にしか理解できない本当の孤独を持っているのだろうとそのとき感じたのである。▼私は少しでもその方の悩みを解決したいと思った。そこであらゆるカラーを試行錯誤しながら組み合わせ、そのアザのカバーを試みたものの完璧にはあざを消すことはできなかった。ところが仕上がりを見たお客様は大変喜んで、私に感謝の言葉を繰り返し伝えてくれた。その後もメイクを楽しめるようになったと言って何度も店舗に通ってくれるようになったのである。▼私はこの経験から人の悩みや孤独に対して、思いやりの心を持ち行動することで、相手にもその気持ちには伝わるものだと感じることができた。自分自身も、悩みや孤独を感じる時がある。そんなときに誰かが気にかけてくれるだけで、たとえ悩みが解決しなかったとしても、気持ちが楽になるものだと私は感じる。このことは接客だけではなく、どのような人間関係でも共通しているものではないだろうか。▼人は共感や思いやりによってお互いに助け合う共存的存在となる。もちろん自己と他者には決して狭めることのできない距離というものも存在するだろう。しかしたとえ反感を呼んでしまう場合があったとしても、共感や思いやりを心に持つことは人間として生きていく上で大切だと私は考える。人間というものは孤独な存在である。だからこそ、思いやりの心を持つことで周りとの良好な関係を築くことができる存在なのである。

⑧(平成29年度／2018年度)

独学する心は、学問や読書にだけあるのではもちろんない。およそ人が生きるために学ぶ行為の中では、いつも必要とされるものではないだろうか。例えば、私が去年知り合った大工さんは独学の権化のような人だ。自分の家を改築した時に、この人に来てもらった。歳は当時65歳だった。名前は高橋茂さん、大工としての腕もとびきりだが、生きる姿も素晴らしい。▼高橋さんが子供だった頃は集団就職の全盛期。この人は中学卒業後に埼玉へ出て、大工の親方に弟子入りをした。そこで一番つらかったのは、「自分が何をすればいいか、誰も言ってくれなかったこと」だったそうだ。作業現場に行っても、指示が来ない。親方の仕事を後ろから見ていると「仕事の邪魔だ」とか「ぼーっとしているな」などと怒鳴られる。(中略)働きに出て、何をしたらいいかわからないほど辛いことはない。中学を出て親元から離れたばかりの子供だから、さぞつらかっただろう。▼でも、現場にしばらく通っていくうちに、自分が何をすればいいのかが段々とわかってきた。そうすると、親方と自分の差というものが、自ずと見えてくる。親方の鉋から出る削り屑を見て、びっくりする。「どうやったらこんな具合に削れるんだろうか」と考える。夜、皆の仕事が終わり、後片付けも済ませてから、一人で鉋を手にとって不要な木材を削ってみる。見よう見まねだ。そうするうちに仕事がだんだんと面白くなってきたと言う。奉公に入ってから一年くらいでそうだった。大した進歩、大した教育じゃないか。▼大工の奉公働きには、給料なんかない。もらえるのは、何百円かの小遣いだけ。(中略)とにかく仕事以外にすることがない。気がついたら、えらく腕を上げていた。働き始めて5年目に、親方がいきなり「お前はもう一人前だから給料を出す」と言った。一人前の職人に払う給料をいきなりくれたそうだ。年功序列なんかじゃない。これもまた、これもまたため息の出るほど素晴らしいシステムである。▼ここで君達に考えてもらいたいのは、なぜ、親方は高橋さんに何も教えなかったのか？ということである。もちろん意地悪をしているのでも、技術を隠しているわけでもない。口で教えることで死んでしまう技が大工の技だからだ。言葉で教えられたものは、すぐに忘れてしまう。それはただの知識だから。自分の体を使って発見したものは忘れない。そういうものは知識じゃなく身についた自分の技になっている。

(キーワード)独学 技を身につける

(設問)上記の文章を要約した上で「技を身につける」ことについて、あなたの体験をもとに、1200字程度で述べなさい。

(答案例)独学する心は、およそ人が生きるために学ぶ行為の中ではいつも必要とされているものではないだろうか。私が去年知り合った大工さんは、大工の親方に弟子入りをしたが作業現場に行っても指示が来ない。働きに出て何をしたらいいかわからない。夜、皆の仕事が終わり、一人で鉋で不用な木材を削ってみる。見よう見まねだ。そうするうちに仕事だんだんと面白くなってきたという。言葉で教えられたものはすぐに忘れてしまう。自分の体を使って発見したものは忘れない。身についた自分の技になっている。筆者は以上のように述べている。▼私は保険会社に勤めていた。保険の仕組みや国の税制などについては会計学の専門学校でかなり勉強して入社した。しかし現場ではお客様へのご提案となると何から始めていいかわからなかった。同行していた先輩の隣でただひたすら事務作業をしていただけである。ところがその先輩は私への指導はなかった。具体的にお客様にどのように提案するかを私には何も全く教えてくれなかった。▼社に戻ってから私の独学が始まった。自宅に帰ってからでも独学で勉強をした。先輩に同行しては、見よう見まねで先輩のやり方を盗んでやろうと思った。実は先輩はまずお客様の話を真剣に聞くことから始めていた。お客様が話される内容は将来の不安だった。そこから先輩は将来の不安に対するいろいろな備えを分かりやすく説明していくのだ。お客様も納得した顔で頷いていた。こんなやりとりは会計学校では教えてもらわなかった。▼数日が経って私は別の新しいお客様にわが社の新しい保険の提案をすることになった。私にチャンスがきた。これまでの勉強の成果を試すときだ。なによりも先輩の通りにやってみた。上手いいった。先輩からも褒めてもらった。▼実はもう一つ大切なことに気づかされたのである。それは保険というものは社の保険商品売

ではない。将来への安心を売るとのことだ。そしてそのためにはなによりもお客様と信頼関係を気づくことが大前提なのであった。私は一番大切なことを忘れていた。私は自分の契約件数や営業成績のことばかりを気にしていた。自分本位だった。お客様のことなどこれっぽっちも考えていなかったのである。▼看護もそうである。患者様の病気やケガを癒してあげることが当然大切なことだ。しかしそれだけではない。患者様の病気やケガからくる不安や悩みも癒してあげることが大切なのである。さらにもとの居場所に戻してあげる。患者様の失われた夢や希望を取り戻してあげる。それが看護の仕事であると私は考えている。先輩の看護師から技を盗み、患者様のお役に立てる看護師になりたいと強く思っている。

⑨(平成30年度／2018年度)

次の文章は、がんになり不安を抱えた患者とその家族に、対話を通して支援する「がん哲学外来」を開設している病理学者が書いたものです。これを読んで設問に答えなさい。

人間は、自分の寿命に気づかない生き物です。病理解剖を何度繰り返しても、自分が明日死ぬとは思えない。しかし人間は誰でも必ず死ぬ。その事実がわかっていながらどうしても「明日自分が死ぬ」とは思えません。元来、人間とはそういう生き物です。ところががんになると様子が違ってきます。突然、自分の死がリアルに感じられるようになります。実際はがんになっても半数の人は治りますが(発見が3年早ければ7割は治るとされる)、「がん＝死」という図式が頭をよぎります。そして人は、生きる基軸を探し求めるようになります。「自分は何のために生まれてきたのか」「残された人生をどう生きたいのか」「そのために自分は何をすればよいのか」▼あるときから私は「死しても生きるとはどういうことか？」を考えるようになりました。「死から生を見つめる」のが私の仕事だったからでしょう。そして私はこう考えるようになりました。人間には一人ひとり、その人に与えられた役割や使命がある。(中略)▼生後2時間で赤ん坊を亡くした両親と10年後に会う機会がありました。そのとき両親は話してくれました。「あの子が生まれてきたからいまの私たちがいます。あの子の分も楽しく、素敵な人生を送りたいと思っています。いまでもときどきあの子のことを思い出して二人で話すことがあるんですよ。とても短い人生でしたが、いまではあの子にはあの子なりの役割があったと思っています」どんなに短い人生であっても生きている限りは一人ひとりに役割がある。大事なことは、それに気づけるかどうかです。▼人生の役割についてお話をすると、ときどきこう尋ねられる方がいます。「先生ご自身の人生における役割は何でしょう。よかったら教えてください」一言で答えられたらよいのですが、そう簡単ではありません。たくさん死に向き合ってきた私ですが、いまだ、日々、自分の役割を求め続けています。生きながら、歩きながら、探し続ける。それが人生というものではないでしょうか。

(キーワード)人生 役割 使命

(設問) 著者が伝えたいことを簡潔に要約した上で、「人生の役割や使命」について、あなたの考えを1,200字程度で述べなさい。

(答案例)人間は自分に与えられた役割や使命を探り続けながら生きていく生き物である。人が必ず死ぬ時が来るがそれがいつなのかわからない。しかし病気なので余命を告げられる人がいる。余命を告げられた人は今までの人生を振り返り、自分の価値や人生の意味を探し始める。どんな人どんな人生であっても皆、役割や使命があるそれに気付けるかどうかは人生の中で重要なことである。以上のように筆者は述べている。▼私は人生の役割や使命とは、人に何かしらの影響を与えることではないかと考えている。その関わってきた人達から何かを与えられ何かを得て生きてくるはずだ。これにより自分は周りの人たちによってに生かされているということに気づかされる。他者からいろいろなものを与えられているということに気づかされる。日々の生活の中において、命の尊さや感謝や感動に気づきやすくなるのではないだろうか。命の尊さや他者への感謝を知ることにより、今度は自分が他者へ何かを与えられる立場になるのである。人は余命を告げられることにより、日常ではあまり考えることのない自身の人生を見つめ直す。そこから自分が死ぬまでにできる役割や使命を探し始める。人の死は関りをもつ他者に様々なものを与えてくれる。悲しい感情や感謝の感情など、何かしらの感情や影響を与える。▼昨年私の祖母が死んだ。最後に会った時の祖母は言葉を発することもできず寝たきりの状態だった。それでも私が声をかけると力強く手を握り返してくれた。食事を摂ることができず点滴のみと聞いていたので驚いた。私の手を握る力強さは一生忘れられない。祖母は私の心の中で生きている。祖母は私が看護師になることを楽しみにしていた。私は祖母の気持ちを携えて祖母の分まで生きて行こうと心に誓ったのである。▼祖母の死を通して私は終末医療のあり方について考え始めた。知らない病院で知らない人に囲まれて最後を迎えた祖母の姿を考えると複雑な感情になった。祖母の病室

には同じような状況の高齢者がいた。今後さらに高齢化社会が進む中で、どれだけの人がここで最期を迎えるのだろうか。自宅で家族に囲まれながら最後の時を過ごすことができないのだろうか。様々なことを考えるきっかけになった。こうした考えは人生に影響を与えるものだ。この思考や感情は今後の人生の役割や使命に通じるものである。▼人生における役割や使命は、日常生活の中ではなかなか気づきにくい。しかし他者の死を身近に感じることで自らの人生を見つめ直すきっかけにもなる。そこで人は様々な事を考え始める。もちろん人生の役割や使命を見出せるかは本人次第だ。しかし本人が見いだせない場合でも他者に何かしらの影響を与えることができたのであれば、それは人生の役割や使命を果たせたのであると私には考えられるのである。

⑩(平成31年度／2019年度)

「やりがい」というのは、変な言葉である。たとえば、食べがいがあある、といえ、それは簡単には食べられないもの、ボリュームのあるものを示す。「やりがい」に似た言葉で、「手応え」というのもある。これも同じで、簡単にはできない、少し抵抗を感じる時に使う。▼手応えのある仕事というものは、簡単に終わらない、ちょっとした苦労がある仕事のことである。同様に、やりがいのある仕事も、本来の意味は、やはり少々苦労が伴う仕事のことだ。▼しかし、たとえば、自分が能力不足だったり、準備不足だったり、失敗をしてしまったり、計画が甘くて予定どおり進まなかったり、そんなことで苦労を強いられるからといって、それで「やりがいのある仕事」になった、とは言わないだろう。▼そう勘違いをしている人もいる。最初は怠けておいて、×切間際で徹夜をして、なんとかぎりぎり間に合わせる。そういうもので仕事の手応えを感じ、達成感や満足感を味わう、という人が実際にいるのだ。TV番組のヤラセのようなものである。▼本当に素晴らしい仕事というのは、最初からコンスタントに作業を進め、余裕を持って終わる、そういう「手応えのない」手順で完成されるものである。この方が仕上がりが良い、綺麗な仕事になる。▼ただ、こういう仕事ができるようになるためには、沢山の失敗をして、自分の知識なり技なりを蓄積し、誠実に精確に物事を進める姿勢を維持しなければならない。さらに、時間に余裕があるときには、勉強をして、新しいものを取り入れ、これはなにかに活かせないか、ここはもう少し改善できないか、と常に自分の仕事を洗練させようとしていなければならない。この自己鍛錬にこそ、手応えがあり、やりがいがあるのだ。

(キーワード)やりがい 生きがい 自己鍛錬

(設問) 著者が伝えたいことを簡潔に要約した上で、あなたにとっての「やりがいの ある仕事」について、自身の経験を踏まえて 1,200 字程度で述べなさい。

(答案例)「やりがい」とは不思議な言葉である。それと似た「手応え」という言葉がある。両者とも簡単にはできない抵抗を感じる時に使う。手応えのある仕事ややりがいのある仕事とは少々苦労が伴う。ここでいう苦労とは、能力不足や準備不足による失敗を意味しているのではない。本当に素晴らしい仕事というものは、最初からコンスタントに作業を進め、余裕を持って終わる。これは「手ごたえのない手順」で完成される。しかしこのような仕事をするためには、たくさんの失敗をして、自分の知識や技を蓄積し、誠実に精確に物事を進める姿勢を維持する必要がある。さらに新たな知識をつけ、発展改善に取り組むのである。この自己鍛錬にこそ手応えややりがいがあるのだと筆者は述べている。▼やりがいや手応えは簡単に感じられることではない。その領域に到達するまでには、多くの時間と努力が隠されている。つまり自己鍛錬である。看護助手の私が医療現場での実体験をもとに次に述べる。第1にガウンテクニックである。新型コロナウイルス専用病棟では業務以前の技術である。私の指導にあたった看護師は迅速にかつ正確に着脱行っていた。一方の私は一つ一つに時間を費やした。N95マスクに隙間はないか、キャップから髪は出していないか不安であった。ガウンの紐を結んだり、手袋指先まで通したりすることにも時間を費やした。簡単に見える着脱には重要なポイントがあるのだ。その看護師はコロナウイルスが流行した第一歩から業務にあたったのだ。顔色ひとつ変えず時には会話をしながらでも確実に着脱を行う。これこそプロの技であると私は感じた。その裏には数え切れない経験と努力があったに違いない。私の尊敬する看護師の姿である。▼第2にベッドメイキングである。看護助手になった当初は簡単そうで誰でもできる仕事という印象であった。しかし実際やってみると難しいのである。シワを作らないことはもちろん、ベッドやマットレスによって感覚が異なる。患者さんの状態によっては三角折りではなく上下で結ばなければならない。横シーツを複数枚敷く際にも決まりがある。熟練した女子はそれを当たり前のようにこなしている。皆数回のレクチャーを受け、後は内省と経験の繰り返しなのだ。患者さんに怒られても、苦しくても現場に立ち続けること、経験を積むことが必要なのである。▼看護師を見ていると、一つ一つの動きが本当に素早いことに気づく。記録を書いているときでも、同時に他の看護師と会話をして打ち合わせに必要なコ

コミュニケーションを取っている。そしていつもその手元は正確に動いている。看護技術には根柢がある。素早い動作の中にも沢山のエッセンスが詰め込まれている。その領域に達するまでに厳しい経験や努力をしてきたに違いない。簡単に手に入れることはできないが自己鍛錬を通して私も尊敬する看護師の姿を追っていきたい。

⑪(令和2年度/2020年度)異文化間コミュニケーションの専門家、直塚玲子は日本を寡黙文化と呼ぶ。直塚は色々な色々な事例に基づいて、そのように主張する。ここでは一例だけ紹介しよう。▼東京のある女子大学での、蒸し暑い日の出来事。アメリカ人の教員が英語の授業をしている。その教室の窓は、全部閉めてある。隣のクラスでは、発音練習をしているからだ。だが、あまりにむしむしするので、アメリカ人教員は窓際の学生に、窓を開けていいか英語で訪ねた。学生はもじもじするだけで何も、何も答えない。▼こんな簡単な英語にも答えられないのかと腹が立ったアメリカ人教員は、ある日本人教員にこのエピソードを話した。不思議に思った日本人教員は、同じような状況をわざと作って、窓際の学生に窓を開けていいか訊いた。すると、やはり黙ったままもじもじしているだけ。▼日本人教員は日本語で、なぜ黙っているのか、学生に聞いた。私には構いませんが、他の人たちがどう思っているか分かりませんから、私に訊かれても困りません。そう彼女は答えたらしい。▼日本社会では、まず集団があって、その後に個人が来る。集団のメンバーの合意があるかどうか分からない状況で、個人の意見や考えを主張することは、自分勝手、わがままとみなされてしまう。だから、そういう状況では黙り込むことになりがちだ。個々人に意見がないわけではない。過剰に恥ずかしがりなのでもない。集団のメンバーがどのように思い感じているかを考慮に入れて発言すべきだと考えているだけなのだ。日本人にとって、意見を持つこととそれを表明することは別なのである。▼先の女子学生も同じだ。どんなに優秀な学生であっても、クラスのメンバーに受け入れてもらえないことは、しない。それぐらいに、集団に感情的に受け入れられることが重要なのである。直塚はそのように説明する。▼たとえ自分なりの意見や主張があっても、集団のメンバーに配慮して、メンバーの意向が分からない時には、個人として主張せず、黙ってしまう日本人。メンバーの意向に添うと判断した時だけ、発言する。こういう習慣があるので、個人的な意見を述べたとしても、所属グループを代表する意見として周囲には受けとられやすい。

(設問)著者が伝えたいことを240字程度に要約した上で、「集団の中で自身の意見や考えを表明すること」について、あなたの考えを、経験を踏まえて要約を含め1200字程度で述べなさい。

(キーワード)異文化 コミュニケーション 日本社会 集団

(答案例)異文化コミュニケーションの専門家、直塚玲子は日本を寡黙文化と呼ぶ。日本社会では、まず集団があって、その後に個人が来る。集団のメンバーの合意があるかどうか分からない状況で、個人の意見や考えを主張することは、自分勝手わがままとみなされてしまう。日本人にとって、意見を持つこととそれを表明することは別なのである。集団に感情的に受け入れられることが重要なのである。こういう習慣があるので個人的な意見を述べたとしても、所属グループを代表する意見として周囲には受け取られやすい。以上のように著者は述べている。▼課題文を読んで私は集団の中で個人が圧迫を感じずに思いを述べ活動しやすい環境作りが重要だと考えた。私はリトミックとピアノを教える仕事の傍ら、健康を考える会を運営している。前者のリトミックでは特に音やリズムに合わせて皆が同じ動きをする。ところが皆と同じ動きをするのが苦手な子がいた。輪に加わりたくそうにしている。そこで私はやり方を変えた。その子の気持ちを受け止め、一人一人に自由な動きをしてもらうことにしたのだ。すると生徒たちは目の輝きが変わった。臨機応変にやり方を変えことすることで生徒たちは生き生きとした動きができるようになった。私はこの経験を通して相違を受け入れる環境作りが重要だということを知った。▼後者の健康を考える会ではわが子の食物アレルギーが契機で関わるようになった。食物アレルギーは集団生活の中で受け入れてもらう必要がある。私の子は重度の食物アレルギーで給食を提供してもらうことが難しかった。そこで毎日弁当を持参した。アレルゲンが付着しても症状が出現するためクラスの子達と一緒に食べることも難しい。しかしわが子はみんなと机を並べて給食を食べたいと言った。私は息子に自分でクラスみんなにその思いを伝えるようにと言った。わが子はクラスの子らに思いを言った。するとクラスの子供たちが変わった。給食の前と後に手洗いをしてくれたり息子にアレルゲンが飛ばないように注意してくれたりした。自分の思いを他者に向かって発してみ

る。これも大切なことだと気づかされた。▼こうした経験から私は集団の中で自身の意見や考えを表明することはまず他者の意見や考えを受け入れることが大切でその上で自分の意見や考えを表明することだと考えている。看護師の仕事も例外ではない。なぜなら様々な生活環境や価値観をもつ患者様にその時々により最善のケアを提供する必要があるからだ。患者様がより過ごしやすい環境を作るため患者様を全人的に受け入れることが大切だと考える。▼私はこれから看護学生そして看護師として日々進歩する医療技術の習得と他者を受容する心と勇気を育てる患者様のために自己鍛錬に努めていくつもりだ。

⑫(令和3年度／2021年度)

日本の会社では、新入社員は、どのように仕事を覚えていくでしょうか。どうやって仕事の情報収集をしているのでしょうか。彼らは、まず「見る」こと、「観察する」ことから始めます。まわりの上司や先輩の仕事ぶりを「見」ながら、「見よう、見まね」で仕事を覚えていきます。上司や先輩から、言葉での細かい説明や指示を期待するのではなく、自分の「目」で見て、仕事を覚えていくのです。まわりの人たちも、当然のこのように「見ればわかる」と思っているのです、くわしい説明をしようとしません。▼こうして、まわりの人々の仕事のやり方を観察し、人々の顔の表情、視線、しぐさ、雰囲気などを通して、言葉でたずねることなく、「空気を読む」ことで情報収集を行うのです。このように、人間関係そのものである「コンテキスト(文脈・意味背景)」に意味を見いだそうとする情報収集が行われているのです。「よく見れば、わかる、言われなくてもわかるはず」という無言のコミュニケーションが優先される文化なのです。▼しかし、この「空気を読む」という情報収集のしかたは、「言葉」での情報収集よりもはるかに高度でむずかしいコミュニケーションの方法です。言葉がないのに、他人の意図を理解しなければならないのですから。空気が読める能力は、短時間ですぐに身につくものではありません。自分の属する人間関係の中で、長い時間をかけた訓練と学習と経験を通して、初めて身につけることのできる能力なのです。▼高文脈文化は、このように強い人間関係の中に多くの情報が張り巡らされ、言われなくてもわかる、空気が読める「感性のコミュニケーション」が成り立つ文化です。世界の中でも、日本は、空気を読むことができる、あまり例をみない独特のコミュニケーション・スタイルをもった高文脈文化の国なのです。▼日本のことわざの中にも、日本の高文脈文化を証明するものがたくさんあります。「以心伝心」「口は災いのもと」「目は口ほどにものを言う」「出る杭くい は打たれる」「能ある鷹たか は爪を隠す」「沈黙は金」「言わぬが花」「一を聞いて十を知れ」などのように、言葉で話すことよりも、相手の気持ちを推測し、空気を読むことのできる感性のコミュニケーションが奨励されているのです。

(設問) 著者が伝えたいことを 240 字程度に要約した上で、「コミュニケーションのあり方」について、経験を踏まえたあなたの考えを、要約を含めて 1,200 字程度で述べなさい。

(キーワード) 高文脈文化 感性のコミュニケーション 空気を読む

(答案例) ◆情報収集はまず「見る」こと「観察する」ことから始まる。言葉での説明ではなく自分の目で見て覚える。周囲の人の仕事のやり方を観察し、顔の表情、視線、雰囲気などから「空気を読む」ことで情報収集を行う。しかし、この「空気を読む」という情報収集は、言葉の情報収集よりもはるかに難しい。自分の属する強い人間関係の中で、長い時間をかけて初めて身につけることのできる能力だ。日本社会は、無言のコミュニケーションが優先される高文脈文化だ。言葉で話すことよりも相手の気持ちを推測し、空気を読むことのできる感性のコミュニケーションが奨励されると筆者は述べている。◆私は製造業の事務員として働いてきた。発注業務を任せられ、注文書の発行を担当してきた。受注生産品が多く、内容は多岐に渡る。ある商品の部品で、金属の指定をしなければならないものがあつた。私は毎回同じ注文をしていたので、つい省いてしまったことがある。先方は理解するだろうと高を括ってしまった。しかし取引先のいつもの担当者がたまたま不在で代理の人が受け取った。確認の電話がかかってきた。私の怠慢で余計な手間を取らせてしまったと反省した。それからは「これで大丈夫だろう」ではなく、「相手はこう思うかもしれない」と考えるようにした。◆会社員として働く傍ら、私は着付師の仕事もしてきた。着付師の仕事には苦情が多い。その苦情については技術的なものは少ない。むしろ着付師の態度に関するものが多いのである。着付けでは身丈の長さによって最初に締める紐の位置を工夫する。この時に「短い」と口にしてしまった着付師がいた。お客様はこの言葉を聞いて、自分が用意してきた着物が間違いだったのかと不安になる。ここから不信や不満に繋がる。綺麗な仕上がりが台無しになる。お客様に不安や疑問を持たせてはならないのである。自分の中で処理できることは口にしない。お客様の表情から苦しくない顔を読み取る。この事例から私は空気を読むことと感性の

コミュニケーションの大切さを実感した。◆コミュニケーション能力は、看護師にとっても重要な能力だ。痛みや感情を正確に伝えられる人は少ない。看護師は患者様を理解するため心を近づけるようにする。もちろん言葉も大切である。しかしそれ以上に感性のコミュニケーションはもっと大切だ。苦悩する患者様の心に寄り添うことのできる看護師を目指したい。看護学校での学習と訓練を通して感性のコミュニケーションを身につけていきたい。